



問一 慣用的なオノマトペ（擬態語、擬声語）を問う設問です。A は「照れ臭そうに、」に続く言葉、B は「視界が～とまたいた。」にふさわしい言葉を選びましょう。

問二 傍線部①は、「虹」という題で詠まれた俳句に対して、「音々」が思い描いたイメージを表しています。直接、「虹」という言葉を使わずに「七変化」が「紫陽花」を表すことを理解したプロセスを踏まえた「イ」が正解です。虹（空を仰ぐ）→紫陽花（視線を落とす）という動きの変化、イメージの広がりを読み取ってください。「エ」は、紫陽花に引き寄せすぎている選択肢になります。

問三 「虹」という同じ題で俳句を作っても、二人の着眼点が「対照的」だと「一先生」が評価しています。「ウ」が（聴覚と視覚）が適切な組み合わせです。

問四 傍線部②は、「音々」の俳句に対する鋭い感性をとらえた「一先生」のセリフです。「共感性の高い」の意味をよく理解できており、正答率の高かった設問です。

問五 教え子の中学生同士の対決を判定する「一先生」の気持ちを問う設問です。俳句をこよなく愛し、積極的に句会に参加する「嬉歌ちゃん」と、控えめながら言葉に対する独特のセンスを持つ「音々」との勝負を、ほほえましい気持ちで見ている「一先生」の気持ちをしっかりとらえられていました。

問六 傍線部④は、「嬉歌ちゃん」の俳句に強い反応を示した「音々」のセリフです。現実世界と俳句の世界が入り混じる「音々」の気持ちをよく読み取れていました。

問七 傍線部⑤は、「変化球の『本歌取り』」と講評された「嬉歌ちゃん」の俳句について、具体的にどのようなことをしたか、説明する問題です。「本歌取り」は、傍線部の次の行に「先人の歌を取り入れる和歌の技法」とあり、「嬉歌ちゃん」は、そのジャンルを童謡の『うみ』へと拡大した点が「変化球」と言われる理由です。俳句の「いつてみたいな/よそのくに」という部分が、童謡『うみ』の歌詞と重なっていることに気づいて、まとめる問題です。部分点が多かったのは、「先人の和歌ではなく、童謡を使った」と、「変化球」の意味を誤解している答案です。「嬉歌ちゃん」のセリフにも注目しながらまとめましょう。

問八 傍線部⑧は、本文の最後に傍線が引かれており、句会に参加した「音々」の変化を表す言葉です。「音々」が俳句にのめり込んでいくきっかけにもなっており、「音々」自身がこの変化に「いちばん驚いていた」という意外性を読み取ってほしい設問です。

問九 会話形式で、登場人物の性格や関係性を問う設問です。(1)では、「五月雨句会」では、参加者同士が互いに俳号で呼び合い、俳句仲間という関係が生まれる点に着目しましょう。(2)では、「音々」のセリフを声に出してみると、話し言葉が「五・七・五」になっていることに気づくでしょう。会話の流れを踏まえて、「共感性が高い」という特徴以外に気づいてまとめてほしいです。

二

問一 語句の意味を問う問題です。意味のわからない言葉は、こまめに調べる習慣をつけましょう。

問二 傍線部③よりも離れた部分の内容をまとめる問題です。ここでは、傍線部⑥のある段落とその次の段落の内容をまとめます。「迷惑」をかける側と「迷惑」をかけられる側の両方に喜びがあること、「迷惑」がないよりも「迷惑」がある方が豊かな世界になる可能性があることの2点をまとめます。60字以内という字数の指定があることから、後者の点だけでは説明が不十分です。まとめる際には、語順にも注意しましょう。誤答の中には、「豊かな世界になる」と言いたいのに、「豊かな『迷惑』になる」と書いている解答がありました。

問三 ブフネラがアリマキと共生した結果、どのようなになったのかをよく理解できていました。正答率の高かった問題です。

問四 空欄Aの1行後の「一人前の独立した生物として認めることはできない」に注目しましょう。

問五 傍線部⑤と同じ行に「人間はアミノ酸のいくつかを自分で十分な量作ることができず、他の生物から摂取しなければ生きていけない。」とあります。アミノ酸の中には、人間が自分で作ることができるものがあるということになります。ここで問われている関係に「当てはまらないもの」としてはウが正解になります。

問六 接続語についてよく理解できていました。正答率の高かった問題です。

問七 傍線部⑥の前後の内容を読み取る問題です。傍線部⑥より4行前に「この世界は～可能にしている。」とあり、「人間社会も」そのようであるということです。完全ではない者同士が補い合うことで、社会が成り立っているという趣旨の選択肢はウです。

問八 空欄a以降の内容を読み取り、小見出しを選ぶ問題です。空欄aの2行後に「人に迷惑をかけないようにと～余地がない。」とあります。筆者は、「世界を閉じてしま」うことに否定的な立場です。空欄a以降からは、閉じない世界の魅力や可能性を読み取ることができます。

問九 脱文補充の問題です。【I】～【IV】の周辺にある「それ」「そんなこと」「この」「そんなふうには」が何を指すのか、「だから」がどういうわけなのかを考えましょう。

三

②「簡便」は「弁」の誤りが多かったです。⑥「飛散」は「飛」のハネに注意しましょう。

⑦「起承転結」は正確に書けたかどうかで差がつかまりました。

聞いたことがある言葉はきちんと書けるように、日頃から練習しましょう。